

幕末の奇才浮世絵師
没後150年 歌川国芳展
2011年4月12日(火)～6月5日(日)

前期:4月12日(火)～5月8日(日) 後期:5月10日(火)～6月5日(日)
※前期、後期でほとんどの作品が入れ替わります。

歌川国芳(1797～1861)は、幕末に活躍した浮世絵師です。『水滸伝』の英雄・豪傑たちをダイナミックに描いた武者絵で脚光を浴び、役者絵・美人画をはじめ、西洋画の影響を受けた風景画やウィットとユーモアに富んだ戯画など、さまざまな分野で個性的な作品をのこしています。

巨大なクジラとその背に刀を突き立てる宮本武蔵を描いた《宮本武蔵の鯨退治》(図①)は国芳の代表作。このように大判錦絵を3枚つなげた大画面に、大きくモチーフを描く手法を国芳は得意としました。迫力ある武者絵とは逆に、国芳は楽しくかわいらしい動物たちもたくさん描いています。《猫の当字 ふぐ》(図②)は、無類の猫好きである国芳の面目躍如たる作品で、ネコたちが伸びたり丸くなったりして「ふぐ」の文字を形作っています。また、《国芳もやう正札附現金男 野晒悟助》(図③)は、一見怪しげな雰囲気作品ですが、よく見ると着物のドクロは白い猫たちが寄り集まって出来ています。単にかわいらしいだけでなく、機知に富んでいるところも国芳作品の魅力のひとつです。

本展には、新発見の作品も出品されます。擬人化された金魚がかわいらしい《金魚づくし ぼんぼん》(図④)もそのひとつで、これまで同シリーズの8図が知られていましたが、本図は9図目としてイタリアで発見されたものです。

ここではほんのわずかな作品しかご紹介できませんが、400余点という史上最大級の規模で開催される本展で、ぜひとも国芳の魅力に触れてみてください。奇想天外なアイデアやあふれる想像力で江戸時代の人々を楽しませた国芳は、きっと現代の私たちの目も楽しませてくれることでしょう。



①宮本武蔵の鯨退治 弘化4年(1847)頃 [前期4/12～5/8]



②猫の当字 ふぐ 天保13年(1842)頃 [前期4/12～5/8]



③国芳もやう正札附現金男 野晒悟助 弘化2年(1845)頃 [後期5/10～6/5]



④金魚づくし ぼんぼん 天保13年(1842)頃 [後期5/10～6/5]

観覧料 一般1,300円(1,100円) 高大生900円(700円)
中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方は無料(要証明) *カッコ内は郵売 20名以上の団体料金、前売券は4月11日(月)まで発売
主催 大阪市立美術館、日本経済新聞社、毎日新聞社

受贈記念 田原コレクション
色鍋島・藍鍋島

2011年8月2日(火)～9月4日(日)

大阪市立美術館では、故田原一繁氏と元子夫人の収集による118点にのぼる鍋島焼をご寄贈賜りました。その受贈を記念して、初期鍋島から後期鍋島にいたる色絵・染付・青磁の名作の数々を紹介いたします。鍋島焼は、江戸時代に鍋島藩が将軍家や有力な大名・公家への贈答品などとして、佐賀県伊万里市大川内山に所在する鍋島藩窯で制作した磁器で、その和様の意匠と精緻な技法が特筆されます。特に元禄期の作例をはじめとした盛期鍋島の色絵はその極致といえるでしょう。田原コレクションは植物文様の作品が多いことが特色のひとつです。日本の四季をいろどる様々な花卉とそのデザインをお楽しみください。



●色絵 唐草文変形皿 鍋島藩窯・初期鍋島 [松分谷手] 江戸時代(17世紀)



●青磁染付色絵 青海波梅樹図皿 鍋島藩窯・盛期鍋島 江戸時代(17～18世紀)



●色絵 唐草文向付 鍋島藩窯・盛期鍋島 江戸時代(17～18世紀)



●青磁染付 宝文文皿 鍋島藩窯・盛期鍋島 江戸時代(17～18世紀)

中国石造彫刻 400年

雕刻時光 - Sculpting in time

2011年8月2日(火)～9月4日(日)



●石造 菩提交脚像 [背面] 北魏時代(5世紀後半) 本館蔵 [山口コレクション]

仏像は、人々が「仏のすがた」を想像し、礼拝の対象としてふさわしい、あるいはこうあって欲しいと思う理想を造形化したものです。そのため、面長で寝せていたり丸々とふくよかだったり仏像のスタイルも時代や地域によって変化しています。

「中国の仏像」というとなんだか堅苦しい難しそうな雰囲気ですが、そもそも美術鑑賞は観ている方が何を感じ何を思うかが重要なこと。王朝名がわからなくて、仏像の名前が読めなくて大きな問題ではありません。

大阪の暑い夏。涼しくて薄暗い展示室で、たまにはのんびりと石に刻まれた仏像を眺めてみませんか。

日本を代表する中国彫刻コレクションとして知られる本館蔵・山口コレクションを中心に、北魏～唐時代(5-8世紀)につくられた仏教・道教による石刻造像を展示します。



●石造 如来立像頭部 [河南省龍門石窟奉先寺洞窟] 唐時代(8世紀前半) 本館蔵 [小野コレクション]